



香良洲町の鯖大師さば だい し

市香良洲庁舎の西側を流れる雲出川の堤防のそばに、弘法大師を祭った大師堂があります。香良洲町史によると、この大師堂は大正5(1916)年に創建されたことが伝えられていて、平成元年に現在の本堂が再建されました。本堂の向かい側にある2棟の覆屋には、弘法大師像や観音菩薩像などさまざまな石仏が安置されています。

今回は、北側の覆屋西端に安置された、鯖大師と呼ばれる僧形の石像(写真)を紹介합니다。左手に念珠を、右手に魚の尾ひれを持って立つこの像は弘法大師像の一種で、徳島県海陽町にある四国別格



二十番霊場の第四番札所、鯖大師本坊とも呼ばれる八坂寺に伝わる伝説に由来します。

1,200年ほど前、弘法大師が四国を巡り歩いていた時に、通り掛かった馬子に積み荷の塩鯖を乞うたところ、邪険に断られてしまいました。馬子が馬引坂という所まで来ると馬が急に苦しみだしたため、馬子は先ほどの僧が弘法大師だ

と気づき、慌てて鯖を差し出してお詫びし、馬を助けてくれるよう頼みました。弘法大師が水を与えたところ馬はたちまち元気になりました。弘法大師が近くの八坂八浜の法生島という所でもらった塩鯖を海に放すと、鯖は生き返って泳いでいったと伝えられています。

この説話は、供物としての鯖を通した大師信仰の一種で、昔から鯖大師の石像に鯖を供えると腹痛が治まったり、鯖を3年食わずにいると願いがかなったりするといわれています。

大師堂の2棟の覆屋は参詣者の皆さんによって整備されています。多岐にわたる石仏が安置されるこの場所に、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



覆屋の内部



大師堂

